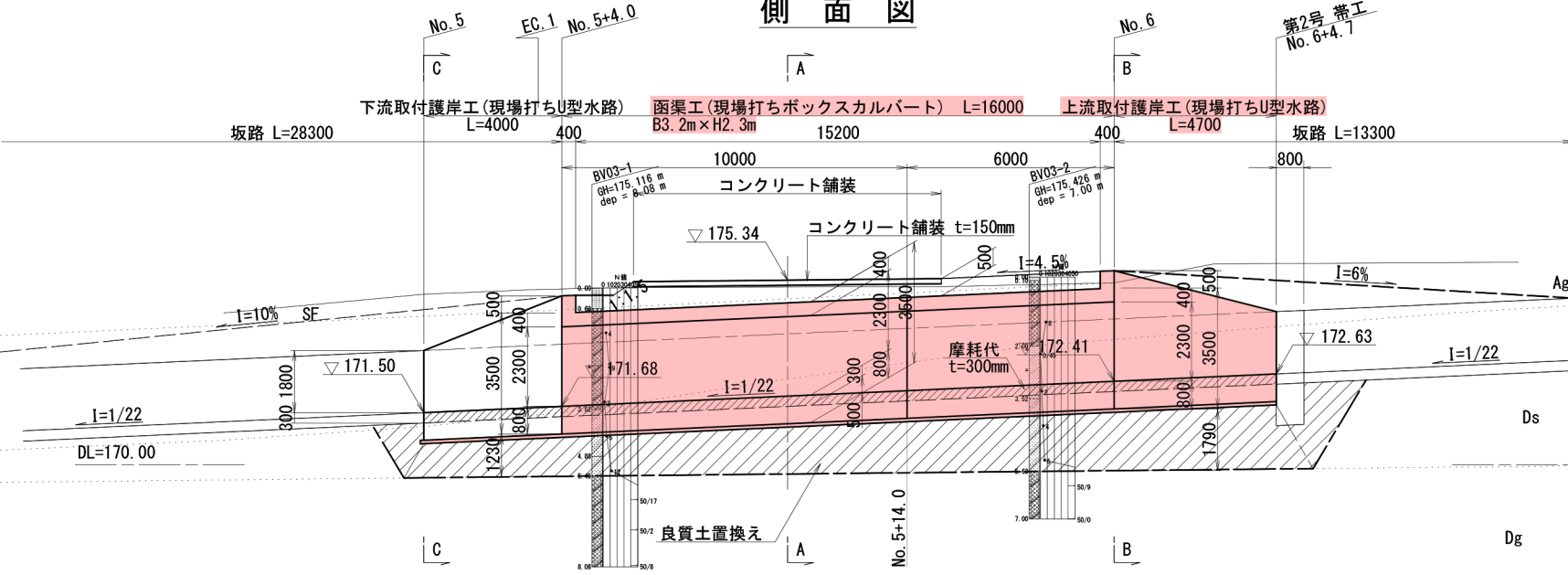


函渠工一般図

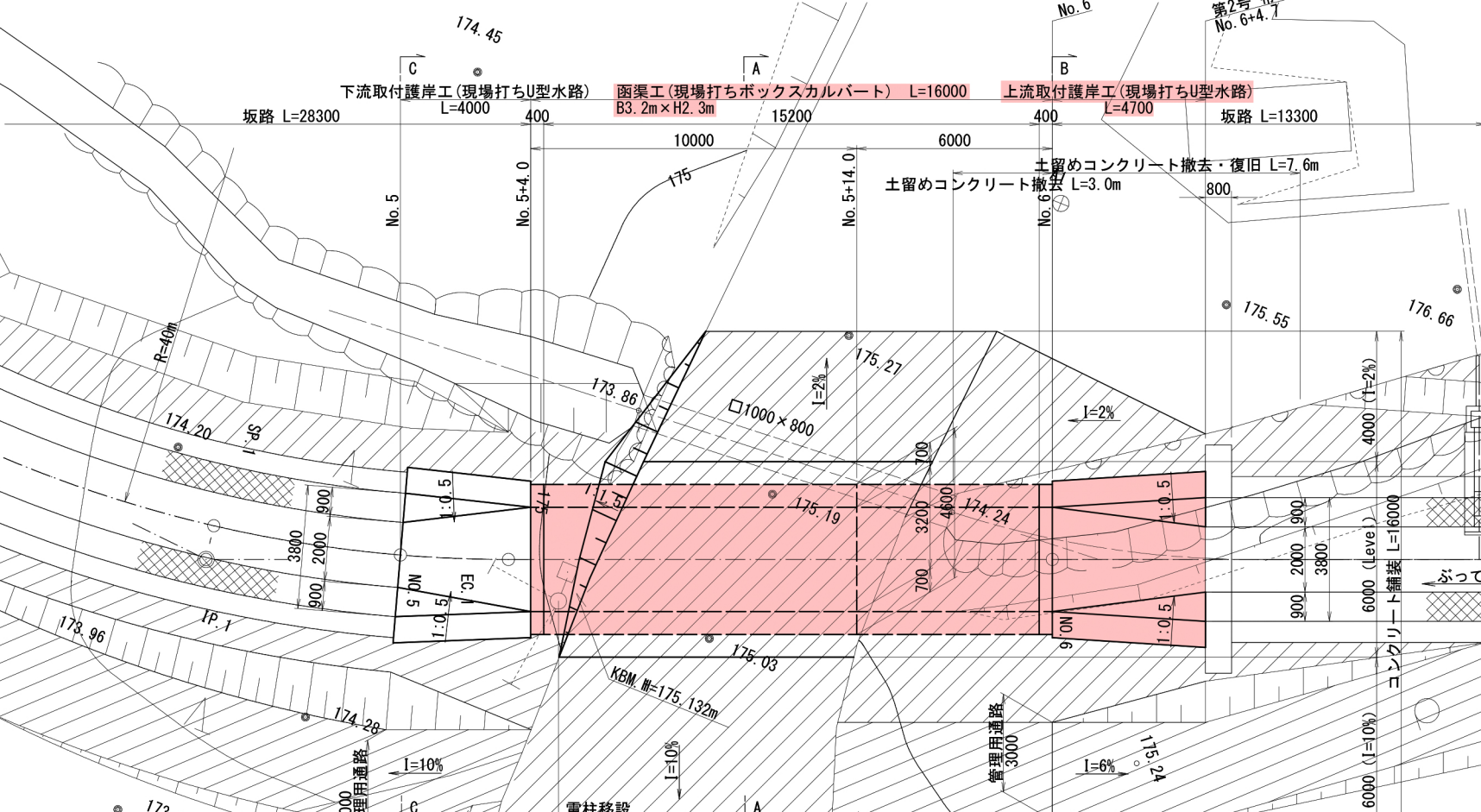
<B3. 2m×H2. 3m>

S=1:100

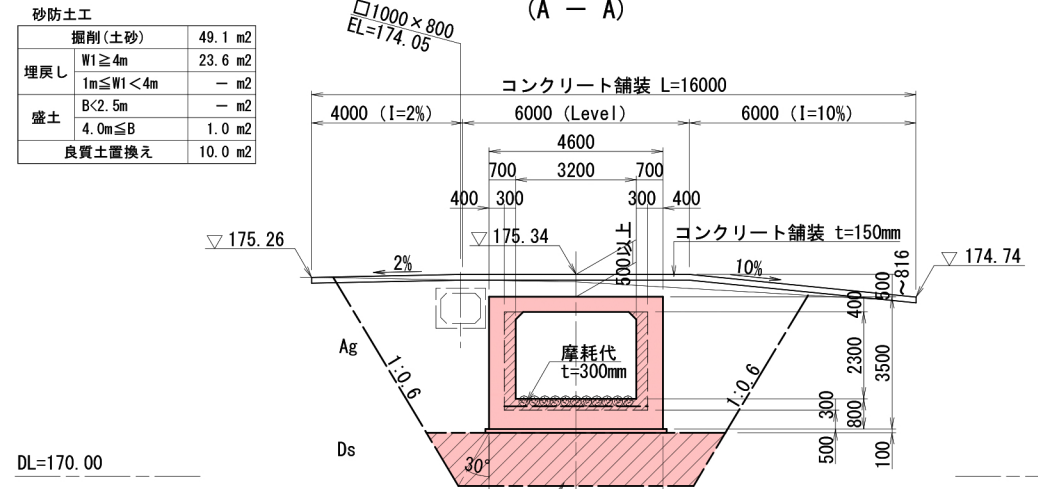
側面図



平面図



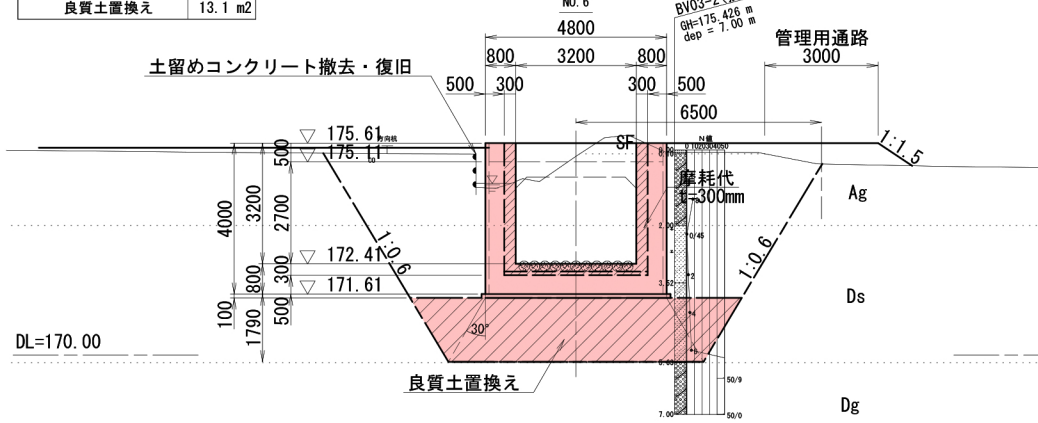
断面図



砂防土工

掘削(土砂)	49.1 m ²
埋戻し	23.6 m ²
盛土	1.0 m ²
良質土置換え	10.0 m ²

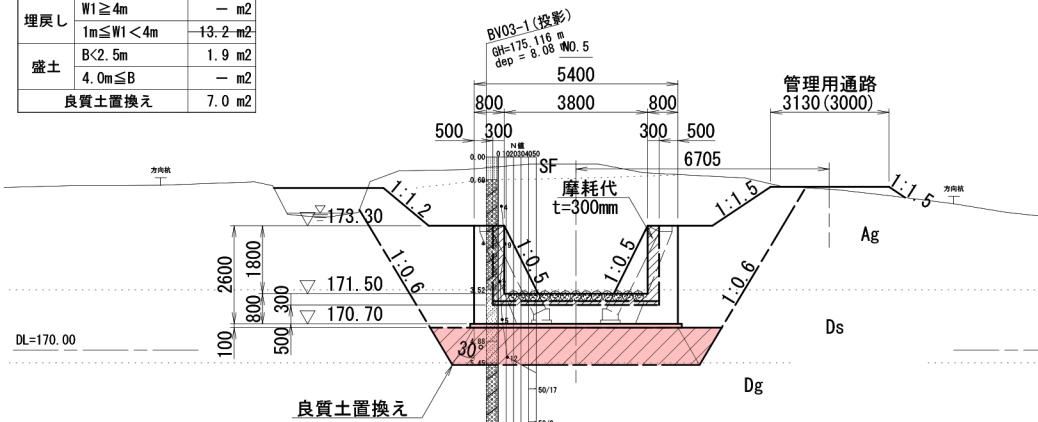
(B-B)



砂防土工

掘削(土砂)	54.2 m ²
埋戻し	23.6 m ²
盛土	3.3 m ²
良質土置換え	13.1 m ²

(C-C)



砂防土工

掘削(土砂)	48.5 m ²
埋戻し	13.2 m ²
盛土	1.9 m ²
良質土置換え	7.0 m ²

凡例

土質名	記号	設定N値	単位体積重量 γ t (kN/m ³)	粘着力 c (kN/m ²)	内部摩擦角 φ (°)	許容支持力 (kN/m ²)	仮設切土勾配	恒久切土勾配
有機物混じり砂質土(表土)	SF	(2)	17	0	25	---	1:0.6	1:1.2
砂混じり礫	Ag	5.8	18	0	32	---	1:0.6	1:1.2
シルト質細粒砂	Ds	4.8	17	0	31	---	1:0.6	1:1.2
砂混じり礫	Dg	148	20	0	45	400	1:0.6	1:1.2

《置換え基礎の留意事項》
 (※1) 改良範囲は、函渠底部面に深に分布する不安定となるシルト質細粒砂層(Ds)であり、基礎地盤となる砂混じり礫層(Dg)まで置換えるものとする。
 (※2) 置換え基礎の材料は、地下水位が高いことから良質土(碎石:R0-40)とする。
 (※3) 上記に併せて、置換え基礎の範囲は底版面から30°の分散角を考慮した範囲とする。
 《その他の留意事項》
 (※1) 斜面掘削施工後には仮設時の法面保護を目的として、斜面上に土養生シート等を設置する事が望ましい。
 (※2) 掘削施工の結果、地質分布状況が設計段階での想定と相違している場合には、監督員と協議の上で、地質状況に応じて掘入や構造変更等に関して適宜に見直しに対処する事が望ましい。
 (※3) 掘削土砂の大半が軟質な砂混じり礫(Ag)、シルト質細粒砂(Ds)の土砂であり、埋戻し材として不適当となる場合がある。但し、施工者及び監督員との協議により、掘削土が埋戻し材として適当であると判断され、転用可能な場合にはこの限りではない。
 (※4) 函渠工の施工に当たり、電柱の移設が必要である。